

海老名市立海老名小学校 学校運営協議会 議事録
(令和5年度 第2回)

- 1 日時 令和5年10月25日(水) 10:00
- 2 場所 海老名小学校 校長室
- 3 出席委員 小田島恵子委員、赤塚 誠委員、生駒 晶委員、小松 聡委員
奥貫 誠委員、奥泉 憲校長、楠 祐子教頭、風間大輔総括教諭
- 4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

奥泉校長 海老名中学校の体育祭を参観してきた。卒業生の成長を感じられた。

(2) 第2学期の学校行事等の実施状況について(教頭より報告)

(3) 協議事項

① 次年度の学校運営について(校長より)

○海老名小フルインクルーシブ教育について

- ・ 交流活動の充実
- ・ 措置替え対応の検討
- ・ 不登校傾向児童の居場所の確保
- ・ 新一年生スタートカリキュラム
- ・ 国際理解教育の推進
- ・ 個別支援体制の拡充

以上のような観点から、次年度のグランドデザインを検討したい。

奥泉校長 次年度、支援級に在籍している児童が増加する見込み。

小田島委員 昔と比べて、保護者の支援級へのイメージが変わってきているように感じる。支援級は、少人数の教師で手厚く支援してもらえると感じて、在籍を希望する方も多いのでは。

奥泉校長 通常級と支援級の交流の仕方も様々である。

奥貫委員 先生方の負担にならないか心配である。支援級に在籍するにあたり、外部の指標は参考にしているのか？

奥泉校長 すでに参考にしているところ。次回の学校運営協議会で、これらの柱に沿って、グランドデザインを提案したい。

② 全国学力学習状況調査の児童質問紙の結果について（校長より）

ここ3年間の「全国学力・学習状況調査児童質問紙」の結果について考察した。本校児童は、「自分には良いところがあると思いますか。」「学校に行くのは楽しいと思いますか。」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問に対して、肯定的な回答がやや少ない傾向が見られた。

- 奥貫委員 この結果の背景として予想されることとして、児童への教師の関わり方があると考えられる。また、児童一人ひとりの学力や実態に応じた学習をより支援することができれば、改善していくと考えられる。
- 小田島委員 児童は、家で見せる顔と学校で見せる顔が違う。多忙な先生方にとって、お一人で30～40人の児童へ目配りすることはとても大変なこと。人材を確保して、少人数学級を目指すべき。
- 生駒委員 家庭科の実習の支援に参加しているが、支援の必要性を感じる。
- 奥泉校長 困っているのは、子ども。
- 生駒委員 目標を高く設定しすぎている子もいるのではないか。
- 赤塚委員 「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の質問に対して肯定的な回答が少ないというのが気になる。
- 奥泉校長 もっと子どもたちを誉めてあげたい。そのためには、しっかり見てあげないといけない。
- 赤塚委員 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問に対しても、肯定的な回答が少ないというのが気になる。
- 奥泉校長 子どもの意識を高めていきたい。

③ 次年度モジュール学習の導入について（風間より）

次年度より、①児童の学習内容の基礎基本の定着 や ②短時間学習による集中力の向上 を目指して、「モジュール学習(※)」を取り入れる準備を進めている。

(※)通常45分の授業を、15分ごとの3つに分ける短時間学習のこと。3回のモジュール学習で1回分の授業としてカウント可能。

これにより、日課表、時間割表の変更が伴う。

- 赤塚委員 児童が学校にいる時間が「学習の時間」ばかりになり、ゆとりがなくなってしまうことが心配である。
- 奥泉校長 短時間学習に取り組むことで、集中力の向上が期待される。
- 赤塚委員 保護者へ丁寧な周知が必要である。

奥貫委員 日課表の変更や下校時刻が変更になることについては、特に丁寧な周知が必要である。

④ 次年度の学校予算について（教頭より）

令和6年度ひびきあう教育実践事業費計画については、これまで「維持管理経費」と「学校運営経費」に分かれていた枠組のうち、「学校運営経費」については学校の特色を生かして、予算の枠組みを学校独自で設定することとなった。本校は、「ICT を活用した個別最適な学び」と「一人ひとりが安心して学べる環境づくり」を重点事業として検討している。

小田島委員 予算が少なすぎて驚いた。

奥貫委員 これでは先生方がやりたいことができない。例えば、別室登校の児童のための環境整備でパーテーションが2枚だけの予算しかついていない。

奥泉校長 本校だけでなく、他の学校も同じように削減されている。

生駒委員 子育てに予算をつけてほしい。

奥泉校長 しかし、これまで予算について関わりのなかった先生方が、関心を持ちはじめたことについては良かったと感じる。本来は管理職で行うべきことなのかもしれないが。

奥貫委員 一般企業のやり方に近いように感じる。

奥泉校長 予算の使い道に頭を悩ますことも大切だが、先生方には子どもと向き合う時間を大切にしてほしいと感じる。

⑤ 今後のPTAの任意加入について（校長より）

PTAの任意加入についてPTA本来の形に沿っていこうとする動きがある。市内他校の状況を共有し、今後意識調査等を経て、今後の本校のPTAのあり方について検討を進めていきたいと考えている。

奥貫委員 任意加入についての流れには逆らえない。任意になった時に、どれだけの方が加入してくださるか、また、登校班についてはどうなるのか。

小松委員 中学校には登校班がなく、この流れは比較的受け入れやすいと思うが、小学校では課題が多いように感じる。

奥泉校長 昨日、本校では家庭教育学級が開催された。とてもいい内容で、参加された方も満足されていた。PTAの組織として、何を残すのか、と感じている。

小田島委員 長年PTAに関わってきたが、役員等を経験した人にしかわからない良さがあると感じる。任意加入となるのであれば、「PTA

の魅力とは何か」を考えなければならない。

- 生駒委員 例えば、ボランティアやエントリー制にする案があるかと思うが、集約する人の負担が大きく、持続するのが難しいと感じる。
- 赤塚委員 すでに任意加入している他校の加入率が60%ほどだと聞く。この後、減少していくことが予想される。活動を縮小させていくことは免れない。
- 奥貫委員 PTAの良さ、メリットをどう伝えればいいか。
- 生駒委員 PTAの活動が縮小するとはいえ、登校班もなくなってしまうのはいかがか。
- 奥泉校長 市内でも自由登校の学校があるが、地域の方が立哨してくださっていると聞く。
- 小田島委員 そもそも登校班は、保護者の皆さまの要望で成り立っているものはず。もしかすると、登校班の班編成等を学校が行っていると思っている保護者がいるかもしれない。また、登校班の組織がPTA活動だと思っていない方もいるかもしれない。意識調査を行うにしても、登校班について保護者と共有することが必要かもしれない。
- 小松委員 私は子どもが入学するときに、小学校に登校班があるということで安心した。学校として登校班を残すのであれば、PTAとは別に、登校班の編成や運営を行う組織を新たに立ち上げる選択肢もあるのではないか。
- 奥泉校長 本日いただいたご意見は大変参考になった。今後の学校運営に生かしていきたい。次回は2月を予定している。